

令和 6 年度 守山市健康づくり推進協議会

日時：令和 7 年 2 月 21 日（金）

午後 2 時から午後 3 時 30 分まで

場所：守山市役所 3 階 33・34 会議室

1 出欠状況

(1) 出席者（12 名）

岡村会長（Zoom）、福田副会長、間下委員、朝見委員、寺田委員、富田委員、藤本委員、小林委員、今井委員、川田委員、兼松委員、小泉委員

(2) 欠席者（6 名）

大谷委員、中井委員、朝日委員、遠藤委員、山本委員、北村委員

(3) 事務局

健康福祉部 武内部長、川上次長

すこやか生活課 堀江課長、金沢参事、百田主査、阿部主査、岩波主査、
山田主任、清水歯科衛生士

地域包括支援センター 小倉保健師

(4) 傍聴者 なし

2 内容

(1) 開会

(2) 協議事項

ア 令和 6 年度事業実施について

発言者	内容
事務局	資料 1－1、1－2 について説明
福田副会長	ご質問、ご意見等があればお願いしたい。
朝見委員	この度、すこやか生活課と平和堂との三者協働事業を行った。守山市健康づくり推進協議会委員を長くしていることで、守山市の課題を理解し、何かできないかとすこやか生活課と話し、取組がはじまった。レシピ集もでき上がっている。平和堂で販売された惣菜「ミルクカレーグラタン」も開発することができた。コンセプトとしては野菜を意識して食べる、というより「美味しいと思って食べてい

	たら、たくさん野菜を食べていた」という形で野菜が気軽に摂取できたらと良いと考え、学生にレシピを考案してもらった。次の審議事項でも出てくるが、今回は開発したところまでで、今後レシピが広まっていき、市民が食べていただいて健康になっていくということが大事。今後も市と連携していきたいと考えている。
福田副会長	他にご意見はあるか。
寺田委員	小学校・中学校の給食の残食が多いと聞いている。魚のから揚げは食べるが、焼いた魚や湖魚は食べないこどもが多いと聞く。好き嫌いも多くなると思うが、小中学校での食育が大事ではないかと考える。
小泉委員	こどもの頃からの食育については、今でも学びを深めているところ。今回のような保育園・こども園で学びを深める取組はよいと思う。小学校では栄養教諭が給食の時間の中で食育授業を実施している。こどもたちも小学校6年間で栄養バランスの大切さは学んでいる。中学校給食も始まっているので、小学校と同じような取組はされていると思う。社会に出た時に小中学校で学んだ食育を活かすためには、市民対象のイベントは大事であると思う。興味がある人は自ら情報を手に取るが、興味のない人に広く周知していくことが大事と考える。
朝見委員	残食の原因の一つとしては、給食は調理から喫食まで時間がかかることや大量調理をすることで、家庭での調理に比べるとおいしさが低下すること。この差をいかになくすかが大事。大学での研究などでおいしさを追求していく必要がある。また、学校での食育の推進では、栄養教諭を全校に配置することが大事。全校配置が難しくとも人数が増えることで、食育が浸透していくと考える。
事務局	龍谷大学に協力いただき出来たレシピ集は、学校給食所管の保健給食課と協力して今後展開していきたいと考えている。
福田副会長	市と教育委員会が協力して展開すると良い。
岡村会長	レシピの普及が大事。次年度の計画でも話されると思うが、素晴らしいレシピをどこまで広げられるかが大事だと思うので、今後の展開を検討してほしい。
福田副会長	ビワテクの件で、参加者人数が増えれば増えるほどインセンティブは増加させるのか。
事務局	予算に限りはあるので、今年度であれば500名分が対象となる。
福田副会長	参加者人数が増えれば、当選する人も少なくなるのではないかと懸

	念している。
岡村会長	50 歳節目健診の所で、婦人科系検診と骨粗しょう症検診以外は低調と言われていたが、ターゲットにする年齢を検診ごとに変えてもいいのではと考える。一般的ながん検診であると会社に勤めている人は会社で受診しているので、逆に会社を辞める年齢の人を狙っても良いのではと考える。すぐに実施方法を変更すべきというわけではなく、今後ターゲットを考えていただければと思う。
福田副会長	国保加入者であると健診受診者は 60 歳代が一番多くなっている。スポーツ推進委員のお立場から、食育でも健康づくり全体でも取り組んでいることがあればご意見いただきたい。
小林委員	小学生が魚の骨に抵抗があって食べないということは、保護者を巻き込み、保護者の食育への理解を深めてもらう必要があると考える。
川田委員	保育現場では、小さい頃からの食育は大切と考えており、たくさんの食材に触れていくことを実施している。しかし、ご家族が嫌いな食材はこどもも嫌いになっていく場合があり、野菜嫌いな家庭であれば、こどもも野菜嫌いになることがみられる。園ではこどもたちでピーマンなどの野菜を育てて、給食で食べたり、家に持って帰って調理する取組を実施している。また、給食試食会というものを各園で実施している。保育園とこども園は市の栄養士が栄養計算をしたものを基に各園で調理している。こどもを通じて保護者にも働きかけているが、「こどもが食べなくて…」で終わってしまうこともある。そのため園では、スポーツで身体を動かして、エネルギーをたくさん使って、色々な食事を食べられるというサイクルに持って行けたらと考えている。
福田副会長	歯科衛生士会のお立場から、令和 6 年度の取組についてご意見いただきたい。
今井委員	歯科衛生士会としても様々な事業に参加させてもらっているが、今回資料に記載されているのは、市の歯科衛生士が参加しているものか。
事務局	在宅歯科医療連携室に依頼し、講師をしていただいている。
今井委員	出前講座に行くと、「すごく勉強になった」「よくわかりました」という声は参加者から聞くので、通所介護施設などで依頼があれば行かせていただきたいと考えている。現在 8 事業所が申し込みされているということだが、申し込みがもっと増えると良い。
兼松委員	本事業所でも口腔ケアの講話は 2 月をお願いしている。今年で 3 回

	目の依頼。職員も利用者もとても楽しみにしている。口腔の講話は毎年同じようなテーマであるが、参加されている利用者も違うので、口腔体操を楽しみながら実施されている。 先ほど、残食の話があったが、本事業所では利用者の残食はほとんどない。利用者は食べることが楽しみにっており、自宅で食べるよりも話しながら食べることを楽しみにされている。 残食の無さだが、食べにくさを感じている方や、飲み込みにくさを感じている方に対してどういう調理をするかという活動をしており、栄養士や専門家に相談している。
福田副会長	健康推進員の活動はいかがか。
藤本委員	健康推進員は 126 人。色々な部会があり、その中で口腔ケアを伝えている虫歯予防部会や離乳食部会など様々な分野に分かれて取組をしている。事業実施では、高齢者サロンでの出前講座や体操、離乳食の講話などを行っている。 また、守山市の 7 学区に分かれて健康出前講座を実施する機会もある。 その中で、物価の高騰もあり予算的に苦勞をする場面があった。
福田副会長	民生委員の活動はいかがか。
富田委員	モリーブに行くと、推定野菜摂取量測定器が置いてあり、小さな子どもと保護者が計測していることがある。野菜嫌いな人に野菜不足を可視化できる良い機会となっている。野菜摂取や健康に関する興味関心が社会全体にアップしていると感じている。 先ほど、子どもがあまり魚を食べない話があったが、スーパーでは骨取りの魚が多くなった。子どもがおられる家庭で使われてもいいと思う。15 年ほど前に比べたら社会全体が変わっていると感じる。食育のイベントの時もたくさんの参加者がおられたので、イベントを実施していく必要性について感じた。 地域においては、民生委員として地域のサロンを実施する時に専門の方に来ていただき、健康についての話や栄養についての話を地域でしていただく機会を設けている。
福田副会長	自治会の活動はいかがか。
寺田委員	うちの自治会では月 2 回の百歳体操を実施したり、高齢者向けサロンを実施したりしている。 ビワテクも良い取組であるが、スマホで完結となると、機械が苦手な方は出来るのかという思いもある。

	集まる場を設けても、特定の方ばかりが参加されるので個人で健康管理ができるような働きかけも必要であると思う。
富田委員	ビワテクは私もしているが、1000 ポイント獲得するのは大変。
間下委員	ビワテクに関して、自治会回覧すると参加者数が増えたということだが、一旦は増えるがその後アクティブユーザーはどれくらい増えているのか。 健康イベントを実施した時に 50 ポイント獲得できるなどの仕掛けがあれば集客もでき、良いのではないか。
事務局	今年度は、ビワテクをはじめていただくきっかけを作りたいと考え、インセンティブを実施した。 一方で、アプリをダウンロードされたまま、活動されていないところも課題としてある。ビワテクアプリ運用において各市町が集まり協議会を立ち上げており、そちらでも休眠会員のことは議題となっており、ビワテクアプリ自体の魅力を高めていく仕掛けづくりが必要である。 市のイベントでのポイント獲得であるが、ベジチェックなどのイベント等で二次元コードを設置し、来場者が二次元コードを読み込むと 20 ポイント獲得できる取組を実施している。 来年度事業の所で説明をするが、国スポ、障スポのイベントとビワテクが連動した形で機運を高めていきたいと考えている。
朝見委員	飲料メーカーのアプリでは、すぐにポイントがもらえる。結果がすぐに見えるというのは励みになる。ビワテクでもすぐに見える成果があると続けやすいのではないか。
福田副会長	全体を通して岡村会長から何かあるか。
岡村会長	食育の話もそうだが、ビワテクと何かを連動させるということも大事になる。どのように各事業をつないでいくかが大事になる。

イ 令和 7 年度取組事業について

事務局	資料 2 について説明
福田副会長	ご質問、ご意見等があればお願いしたい。
事務局	本日欠席の滋賀県南部健康福祉事務所の山本委員から市内企業の社員食堂への提供依頼についてご意見をいただいておりますので、紹介する。 「県から声かけさせていただいた当所の業務（給食施設を有する企業への訪問同行）を契機に働き盛り世代に向けた取組が展開されて

	いることを確認させていただきました。 次年度に計画されている、企業との連携により開発された野菜たっぷりレシピが市内企業の社員食堂で健康情報とともに提供される取組は、単に社員食堂での食事が健康的でおいしいという体験にとどまらず、体験とともに各家庭に情報が持ち帰られ、家族への波及効果も期待できるのではないのでしょうか。 また、健康増進部門だけでなく、庁内の各課・市内のステークホルダーとの連携を今後も継続されることにより、健康の要素を取り入れたイベントや取組が各関係機関で定着していくことが期待できると思います。 県においては、健康いきいき21ー健康しが推進プランー（第3次）において、自然に健康になれる環境づくりを進めることとしており、取組の好事例として紹介させていただきたいと思っています。」
福田副会長	どのように市内企業食堂に入ったのか。
事務局	草津保健所が市内企業の食堂に立入検査に行く際に同行させていただき、企業担当者にレシピ紹介し、社員食堂で提供が可能かという話をしている。話した結果、やってみたいとの意見をいただきましたので、展開していきたいと考えている。
朝見委員	社員食堂での普及については、給食施設は手間がかかることはできないので、レシピ集を展開する際にはレシピをアレンジしてもいいことを添えてほしい。 また、郷土料理アレンジレシピであるが、郷土料理は比較的手間がかかるというイメージがあるので、簡単に作れるということが普及につながると思う。共働き家庭が増加していたり、ご高齢になってもお仕事をされていたりと、家で時間をかけて調理をするのは難しい。アレンジレシピ開発の際には「簡単」というのはテーマにしてほしい。そして可能であれば、企業と連携しアレンジレシピキットを作るというのも普及のための一つの方法であると考えます。また、郷土料理を使ったソースやスープを開発し、郷土料理の要素を取り入れた鍋スープができると普及につながるのではないかと。減塩も自然にできたらよいのではないかと。
福田副会長	年齢によって味の感覚が違うので、考慮が必要かもしれない。
間下委員	野菜摂取量の増加について、1日摂取目標量は350gだが、野菜価格も高騰しているので、野菜摂取したくても難しいという方も一定数いると考えられる。野菜をたくさん摂ることのメリットを案内し、

	金銭的な負担があるかもしれないけど、野菜はしっかり摂ろう、と伝えていく手法は必要であるを考える。
福田副会長	歯科衛生士会としてはいかがか。
今井委員	美味しいものを食べるには、歯が必要。しかし、むし歯で痛くなると通院されるが、歯周病となるとなかなか気づきにくいこともあり、痛くないから治療に来ない人が多い。20 歳代から 40 歳代までの方で歯周病の方はいる。かかりつけ歯科医をもってもらい、定期的な受診をしてもらうというのが歯科業界でも課題である。2 歳 6 か月児健診の場での歯周病リスクチェックであるが、この健診に来られる保護者は 20 歳代から 30 歳代までの方が多いと思われ、保護者は仕事に子育てに忙しい世代であるため、今回の歯周病リスクチェックで歯科医院に行くきっかけとなればと思う。
福田副会長	スポーツ推進委員の取組はいかがか。
小林委員	スポーツ推進委員は国スポの実働として参加予定。 他にも 3 月にある野洲川でのファミリーマラソン、4 月のファミリーウォークラリー、6 月の国スポの 100 日前イベントに参加予定である。このような場で作成されたレシピの配布は出来るのではないか。
福田副会長	健康推進員の取組はいかがか。
藤本委員	健康推進員では様々な取組を実施している。口の体操を実施している部会やこどもの食育を推進している部会が出前講座を実施し、積極的に活動をしたいと思っているが、もう少し健康推進員数が増えると一番ありがたいと思っている。
福田副会長	岡村会長、全体を通じて意見をお願いしたい。
岡村会長	国スポについては、行政側は盛り上がっているが、市民に周知が届いていないケースなどがある。県の仕事になるかもしれないが、周知の工夫は必要である。 最初の食育の展開は今後普及していただければと思う。
福田副会長	周知と継続が大事であるので、取組を続けてほしい。

(3) 閉会